

## 第1471回例会報告

### 会長挨拶

会長 河西達雄

### 諏訪湖クリーン祭り

さて8月11日諏訪湖クリーン祭りが開催されました。諏訪湖ロータリークラブからはブース参加をした海老原会員、カヌー体験に参加した森山会員を含め12名が参加しました。本当にご苦労様でした。

昨年は19名の参加でしたので、諏訪湖ロータリークラブの参加人数も若干少なめに感じましたが、全体の参加人数はもっと少なく感じました。参加した人はユニホーム姿が多く、婦人会、消費者の会、衛自連などが主な参加者でした。極端なことを言うと最盛期の半分を切っているのではないかと思います。

諏訪湖ロータリークラブは初代永田会長が「諏訪の湖を心の鏡として」と発言したことから諏訪湖浄化運動を大切な運動の柱としてきました。私もそのころ会員ではなかったのですがこの発言の経緯や詳しい事情は分かりませんが、私が入会したころには、会員の多くがこの運動に情熱を持っていたように思います。しかし現在は諏訪湖浄化にかける情熱の温度が若干低下しているように思われるのは私一人でしょうか。

組織の責任という点においては、諏訪湖ロータリーは実に優等生です。61にも及ぶ参加団体の中で先ほどお話ししました、婦人会、消費者の会、

平成28年8月18日(木)晴れ

衛自連、JC、商工会議所以外で10人以上が参加した団体は訪湖ロータリークラブ以外にはなかったように感じます。名前を連ねている他の団体さんと比較しても実に律儀で誇らしいことです。

しかし運動にかける情熱低下の原因はなんでしょうか。いくつか推測が話されていますが、よく言われるように諏訪湖が昔のように目を覆いたくなるような惨状ではなくなったことも大きな原因の一つでしょう。誰もが「何とかしなくちゃ」という状況から「数値的には泳げる諏訪湖なんだってよ」「湖岸清掃もこうゴミがないと早朝散歩だね」といった中で諏訪湖浄化にモチベーションを持ち続けるのは大変なことです。だからと言って「昔のような汚い諏訪湖に戻ればまた運動も盛んになるよ」というわけにはいきません。

往々にしてボランティア活動はしばらく続けるとこうした閉塞感にとらわれがちです。それは始めたボランティア活動の初期の目的を見失っているためだといわれます。何かすることを決めたら、計画し、実行し、成果を評価するサイクルを大切にしたいものです。

そうした目で考えると「諏訪湖ロータリークラブの諏訪湖浄化運動だけでなく、諏訪地方の浄化運動ももう一度考えてみるべきだな」と今週のウィークリーに記載されました「諏訪湖クリーン祭り大会宣言」を読みながら考えてしまいました。

#### ■出席報告

会員数	38名
出席対象	36名
出席者数	32名
出席率	88.9%
前回修正	91.7%

#### ■ニコニコBOX

8名	8,320円
累計	78,320円
目標額	60万円
達成率	13.0%

#### ■今週のことば

若林様本日はありがとうございます。  
渡邊芳紀地区国際奉仕委員長

若林様、小出様いらっしやいませ！ 河西達雄

皆さん残暑お見舞い申し上げます。 近江誠一







## 交換留学生を迎えるにあたって

担当 国際奉仕委員会

フランスからの交換留学生グエンドリヌさんを受け入れるにあたって地区青少年交換委員会・若林俊樹委員長さんから「交換学生受入の留意点」について卓話をいただきました。

最初に河西会長が「青少年交換事業の意義」について話され、続いて第1期ホストファミリーを引き受けて頂いた宮坂会員からフェイスブックの動画を使い、交換留学生グエンドリヌさんを紹介していただきました。



諏訪湖 RC がスポンサークラブとして送り出す長野西高校2年生の小出木々菜さんが紹介され、フランス留学への熱い想いを話してくれました。小出さんには人生を変えるような貴重な経験をして



もらいたいと思います。



若林委員長の卓話では、受け入れするクラブ、家庭、高校それぞれの留意点について多くの事例をあげながら、時には笑いを誘い解りやすく説明して頂きました。

グエンドリヌさんを迎えるうえで大変参考になりました。